

南房総たてやま自然体験学習プログラム

教育旅行・安全対策のしおり

～先生方へ。プログラムの前に、必ず、お読みください～

子どもたちの心を育む感動体験

房総半島の最南端に位置する館山市は、温暖な気候に恵まれ、緑豊かな山々と青い海に囲まれた自然豊かな環境を有する海辺のまちです。また、昔から海を介した交流文化や戦国大名里見氏を軸とした歴史あるまちでもあります。

南房総たてやま自然体験学習プログラムでは、波静かな館山湾（鏡ヶ浦）や黒潮踊る平砂浦エリアを中心とした海辺の自然体験や、戦争遺跡などの歴史文化体験、房州うちわに代表される伝統工芸、地場産業との連携による農漁業体験など、体験を通じて子どもたちの豊かな心を育む感動体験をご提案しています。

楽しい体験学習を支える安全対策

南房総たてやま自然体験学習プログラムでは、子どもたちが楽しく安全に、良質の体験学習を得られるように、ガイド技能・技術を有するインタープリター（指導者）や漁師、酪農家など地場産業に従事する専門家が感動体験の旅へご案内します。

自然・歴史体験活動は、指導者の一方的な指導ではなく、参加者が自ら体験・参加することにより初めて成り立つものであり、指導者と参加者の共同作業です。

この「安全対策のしおり」は、体験学習プログラムの安全対策について、教職員の協力事項、事前指導等についてまとめたものです。体験学習プログラムの計画、子どもたちへの事前の安全指導等にご利用ください。



館山市観光協会

〒294-0045 千葉県館山市北条 1879-2

（JR館山駅西口・体験交流センター）

TEL : 0470-22-2530 ・ FAX : 0470-22-2546

Email : taiken@awa.or.jp

1. 事前の安全対策のポイント（学校との連携）

（1）常に高い安全意識を備えておく

南房総たてやま自然体験学習プログラムの代表的なプログラムに、海辺の自然体験があります。自然界では、日常の生活からは想像を超える現象・場面に遭遇し、私たちの学びをより豊かにします。

海辺の自然体験は与える感動も大きい一方で、自然現象は時として、予測できない現象を引き起こす可能性があります。子どもたちに感動体験を提供する受入スタッフ、学校関係者がともに常に予測できない事態が起こり得るという高い安全意識を備えておくことが、結果として事故発生の防止に役立つと考えられます。

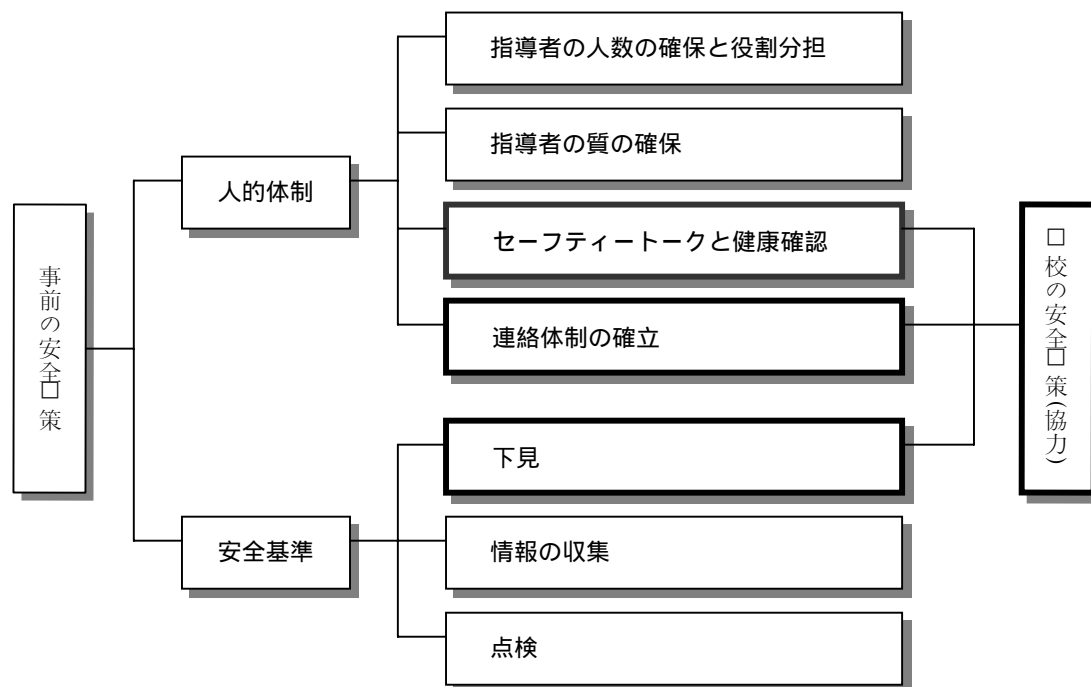


（2）事前の安全対策

事前の安全対策には、大きく「人的体制」と「安全基準」があります。

人的体制は「指導者の人数の確保と役割分担」「指導者の質の確保」「セーフティトーク（事前説明）と健康確認」「連絡体制の確立」が必要です。安全基準では「下見」「情報の収集」「点検」が必要です。

【図 1 事前の安全対策】



国土交通省港湾局監修・海辺の自然学校懇談会（平成 17 年 3 月）
自然体験活動指導者のための海辺の安全対策マニュアル（参照）

(3) 学校側との連携による安全対策

前述の「事前の安全対策」のうち、次の事項について学校側の協力をお願いします。

【参加者へのセーフティトーク（事前説明）と健康確認】

参加者に予め危険を告知し、自分の取るべき行動を説明・指導することをセーフティトークといいます。子どもたちに自分自身が取るべき行動を理解してもらい、かつ活動に支障のない健康状態であることが大切です。

旅行中は体調を崩しやすく、思わぬ傷病が出るものです。フィールドにおけるセーフティトークは、インタープリター（指導者）がその中心的な役割を担いますが、より高度な安全対策を実現するために、各グループへどのような自然体験プログラムを行うのか、服装や持ち物は何かが必要であるかなどの事前説明や子どもたちの健康状態の確認など、学校・教職員のご協力をお願いします。



【下見による受入側と学校側の共通認識】

事前の安全対策としては、危険な場所・物・自然現象を予め回避するための行動ルール（安全基準）を受入側と学校側の共通認識として、確立しておくことが必要です。

実際に、現地及びその周辺の下見（受入スタッフが案内します）を行うことをお勧めします。体験プログラムの実施場所、あるいは活動場所に危険がないか等、教職員の視点で確認をしていただくとともに、災害時の避難場所等の対応など、あらゆる事態を想定して現地をご確認ください。

【連絡体制の確立】

事前の安全対策の上で、事故が起きた場合の連絡体制が整備されていることが重要です。

事故時は情報が混乱しがちです。情報伝達の基本は、「緊急現場」から「館山市観光協会（体験交流センター）」、「館山市観光協会（体験交流センター）」を通じて「学校旅行本部」や「外部施設」という流れで、正確かつ速やかに情報を管理します。

学校においては、館山市観光協会（体験交流センター）と事前の連絡体制（担当者名・電話番号等）の確認をお願いします（必要に応じて、連絡網を作成）。

【参考：緊急時の施設連絡先一覧】

区分	施設名	住所	電話
医療機関	安房医師会病院	館山市山本 1 1 5 5	0 4 7 0 - 2 2 - 5 1 1 1
	亀田総合病院	鴨川市東町 9 2 9	0 4 7 0 - 9 2 - 2 2 1 1
館山市	館山市体験交流センター（館山駅西口）	館山市北条 1 8 7 9 - 2	0 4 7 0 - 2 2 - 2 5 4 4
	館山市観光協会（同センター内）	館山市北条 1 8 7 9 - 2	0 4 7 0 - 2 2 - 2 5 3 0
	館山市観光協会（館山駅東口）	館山市北条 1 8 7 9 - 2	0 4 7 0 - 2 2 - 2 0 0 0
	館山市役所（観光立市推進課）	館山市北条 1 1 4 5 - 1	0 4 7 0 - 2 2 - 3 3 4 6

警察署	館山警察署	館山市北条 1090	0470-23-0110
消防署	安房郡市広域市町村圏事務組合消防本部	館山市北条 1087-1	0470-22-2233

2. 体験の安全対策

南房総たてやま自然体験学習プログラムでは、各種目ごとの安全対策（人的体制・安全基準）と安全管理に精通したインテリプリター（指導者）の育成を図るため、情報の収集・共有、講習会等の開催、指導者や関係機関等との連絡体制の確立、体験箇所の安全確認のための巡回などを行っています。

また、個々の指導者は、スタッフ相互の安全ガイダンス（ファーストエイドの習得）、指導者間での危険箇所等の情報交換、体験前のセーフティークなどの安全対策を施しています。

各プログラムは「傷害保険」に加入しており、事故時は当該保険の範囲内で保障することが可能です。



【参考：主な体験プログラムの安全対策】

海辺の自然体験を中心に掲載

体験プログラム（ガイド）	主な取り組み
無人島の自然体験 （NPOたてやま・海辺の鑑定団）	20名に1人のメインガイド（CONE資格保有者）と1名以上のアシスタントガイドが案内。安全講習会の実施等。
スノーケリングと水中観察 （シークロップ・ダイビングスクール）	体験場所を知り尽くしたプロのダイバーが指導。参加者5～6名に1名の有資格者。
マンボウウォッチング・海中観光船 （波左間漁業協同組合・日東商船）	マンボウ見学は、漁船に救命胴衣を着用し乗船。指導者2名。海中観光船は50名乗船可。救命胴衣装備。
定置網漁体験 （やまと丸水産）	海に精通した指導者（漁師）が見学用の船に2名、作業船に3～4名乗船。参加者は救命胴衣を着用。
沖釣り体験 （伊戸漁協・安田丸）	釣り場は港から近く、天候の急変にも対応。船長以下2～3名の指導員（漁師）が乗船。トイレ・船室完備。救命胴衣を着用。
ボディボード体験 （ペンション・マーメイド）	指導経験豊富な指導者が5～6名に1名。使用するボードは、スポンジ系の柔らかい素材のものを使用。
アクセスディンギーヨット体験 （NPOたてやま・海辺のまちづくり塾）	安定性の高い小型ヨット。救命船（水上バイク）配備。指導者5～8名が乗船をサポート。参加者は救命胴衣を着用。

3. 体験時の防災対策

海辺の自然体験では、その地域特性を考慮し、特に津波に対する災害対策を図っています。

館山市観光協会（体験交流センター）では、参加者の安全を確保するため、『館山市地域防災計画』（平成16年11月策定）が示している「津波危険予想区域」「津波避難予定場所」を基準とする各体験箇所での避難場所・避難経路の把握等、日頃から施設や体験箇所周辺の状況に精通し、安全に避難誘導できるよう

に心がけています。

また、災害時の情報伝達においては、「防災行政無線」による迅速な情報伝達、館山市（観光立市推進課）との共同事務所でもある「体験交流センター」を拠点とする各指導者、関係機関・施設との連絡体制を図っています。

発行：館山市観光協会（平成 17 年 9 月 1 日）